

令和6年12月定例会行政報告

1. 一般行政報告

- 1) 要望等について
- 2) 寄贈金品について
- 3) 作況状況について
- 4) 外国人財誘致推進事業について
- 5) 令和6年度建設工事の発注状況について

令和6年12月9日

中 標 津 町

貴重な時間をお借り致しまして、9月定例会以後の行政報告を申し上げます。

1. 要望等について

第1点目は、要望等についてであります。

1) 最初に、北方領土隣接地域 振興対策 根室管内市町 連絡協議会としての要請活動であります。

10月14日に、伊東 内閣府特命担当大臣が北方領土視察のため隣接地域を訪問された際、根室市で開催されました関係団体との要望・懇談会におきまして、外交交渉を支える国民運動としての返還要求運動の推進、隣接地域における振興対策等の推進、北方四島との交流等事業の推進と拠点機能の整備、北方地域元居住者に対する援護支援などについて要請致しました。

また、私から地域センター病院としての町立中標津病院の現状をお伝えし、経営改革に取り組み医療体制維持に努めるなか、各種経費増大により経営は非常に厳しく、町民や隣接地域の住民、加えて北方四島住民に対する医療提供も重要であることから、安全で安心な医療を将来にわたって提供するため、医療従事者の不足解消、運営経費確保と病院経営の体制強化について要望致しました。

なお、この要望・懇談会には議長の出席をいただいております。

12月1日には、「北方領土返還要求中央アピール行動」として、根室管内や全国の返還運動関係者、国会議員らと共に、東京都心部の街頭PR行進を行ったほか、翌2日に、石破内閣総理大臣、伊東

内閣府特命担当大臣、松本外務大臣政務官を訪問し、国民世論の喚起高揚と、返還運動の推進を要請致しました。

なお、街頭PR行進、要請には、議長も出席いただいたところがあります。

2) 次に、北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会による要望活動であります。

11月18日、国土交通省、財務省及び地元選出国會議員に対し、「北海道横断自動車道根室線の整備促進に関する要望」として、釧路・根室地域の生活、産業を守り、生産性・競争力の向上を図るためには、安全で安定した物流と人の流れを確保することが不可欠であることから、尾幌糸魚沢道路の整備促進、「別保～尾幌」間の計画段階評価の調査促進を要望致しました。

また、北海道横断自動車道は、本年12月22日に阿寒ICから釧路西IC区間が開通します。

この開通により、釧路別保ICに至る高速交通ネットワークとして、道央との移動時間の短縮が図られ、釧路・根室地域における物流の効率化や交流人口の増加による観光振興の発展など、地域経済に対する効果が期待されるところであります。

3) 次に、北海道酪農振興町村長会議 及び 北海道公社営畜産事業推進協議会としての要請活動であります。

11月19日、農林水産省及び道内選出国會議員に対し、北海道の酪農・畜産においては、大規模化が進む一方で、担い手の減少や高齢化の進行、自然災害の頻発・激甚化や飼料等の高騰などにより、酪

農の経営危機や経営意欲の減退を招く現状を訴え、「北海道における酪農畜産対策に関する要望」として、経営安定対策等の推進、生産基盤の維持と強化、担い手への支援強化等の推進などについて要望致しました。

4) 次に、北海道道路整備促進協会としての要請活動であります。

11月20日、財務省及び道内選出国會議員に対し、「高規格道路網等の整備」、「防災・減災・国土強靱化」、「安全・安心な暮らしを支える道路整備」を柱とした「北海道の道路整備に関する提案・要望」として、資材価格の高騰や賃金水準の上昇に対応しながらも、必要な道路整備や除排雪を含む維持管理を長期安定的に進めるための予算確保を要請いたしました。

2. 寄贈金品について

次に、2点目は、寄贈金品についてであります。

お手元に配付のとおり、9月定例会後に、

現金で	3件	6,830,700円
物品で	3件	
ふるさと納税で	1,638件	37,225,100円

の寄贈がございました。

また、企業版ふるさと納税制度として、11月末現在で2件、20万円の寄付金がございました。

寄贈金品を寄せられました方々に、改めて深く感謝を申し上げます。

3. 作況状況について

次に、3点目は、作況状況についてであります。

今年の気候を振り返りますと、5月中旬以降は平均気温も高く、日照時間も長かったことから、作物全般において順調に生育が進んでおりましたが、一部の畑作物において8月下旬と9月下旬のまとまった雨により、収穫に影響を受けたと聞いております。

それでは始めに、飼料作物の状況でございますが、牧草の10アールあたりの収量は、1番草、2番草ともに平年を上回っております。

サイレージ用トウモロコシにつきましても、台風等による倒伏被害も少なく生育は順調に推移したことから、前年を上回る結果となりました。

次に、畑作物ですが、馬鈴薯は8月と9月の降雨の影響を受けたことにより、澁原馬鈴薯の出荷量が前年比7.4%下回る結果となっております。

てん菜につきましては、作付面積の減少に加え黒根病の影響を受けたことにより、出荷量が前年比13.2%下回る結果となっております。

大根、ブロッコリーにつきましては、順調に生育し、収穫作業が進んだことから、出荷量はともに前年を上回る結果となりました。

また、販売価格については、各種売上にバラツキはあるものの、総売上では前年を1割ほど上回る状況となっております。

今後は、生産者及び関係者皆様の努力により、中標津産ブランドの確立が推進するものと期待するところでございます。

次に生乳生産についてであります。

昨年度まで続いた生乳生産抑制も解除されたことから順調に生産量も回復しており、10月末現在の合計で、前年同期と比較して約6,600トン、率にして5.3%の増となっております。

全国的に酪農家の離農が増加傾向にある中で、北海道の生乳生産の占める割合は年々上昇傾向にあり、現在は57%となっております。

今後、益々、北海道酪農への依存度が高まることが見込まれる状況にある中で、国際情勢の緊迫化に伴う飼料価格の高止まりにより、依然として酪農経営は厳しい状況にあります。

これから本格的な冬場を迎え、暴風雪をはじめ、異常気象など、予断を許さない状況ではありますが、今後も適切な乳牛管理の下、計画数量達成を期待するところであります。

4. 外国人財誘致推進事業について

次に、4点目は、外国人財誘致推進事業についてであります。

日本全国で人口減少が進む中、本町においても様々な業種で人手不足の状況が深刻化していることから、外国人材の誘致による地域の活性化と国際化の推進を目的とし、海外留学生や就労者を呼び込むための現地タウンセールスを昨年度から実施しております。

今年度の第2弾として、私が10月19日から24日の日程で「インドネシア共和国」の首都ジャカルタ市などに赴き、トップセールスを行ってまいりました。

現地では、人材を国外へ送り出す事業者や教育機関を対象に「中標津町PRセミナー in インドネシア」と題し、町の様子や先進的な酪農、外国人材が実際に就労している事業者の紹介や、本町の外国人材誘致の取組みについてPRを行いました。

セミナーには38団体42名の参加があり、就労に必要な日本語能力や留学生のキャリアパスに関する質疑を受けるなど、関心の高さを伺うことができました。

併せて、現地の送り出し機関や教育機関、大使館などを訪問し、情報収集や意見交換を行っております。

本セミナーの開催を機に、外国人材の受入れの増加について、大きく期待しているところであります。

5. 令和6年度建設工事の発注状況について

次に、5点目の令和6年度建設工事の発注状況についてであります
が、令和6年11月28日現在でご報告申し上げます。

令和6年度の発注計画は、件数202件、金額にしまして、
34億5,318万円ほどであります。

これに対し、発注状況ですが、件数で201件、率にしまして、
99%となっております。

金額では、34億5,267万円、率にしまして、
99%の発注となっているところであります。

以上、5点についてご報告申し上げ、一般行政報告といたします。